

令和7年矢巾町議会定例会3月会議

一般質問議員と質問事項一覧表

受付番号	質問議員	質問事項	答弁者
1	17番 谷上知子	1. 高騰するランドセルの購入助成について	教育長
		2. 高齢者が安心して暮らせるコミュニティについて	町長
		3. 適材適所で活かし育つ町職員の働き方について	町長
2	10番 小笠原佳子	1. 上下水道事業について	町長
		2. 婚姻届の記入例について	町長
		3. 産後ケアのサポート拡充について	町長
3	16番 赤丸秀雄	1. 町内学校の問題解決に向けた取り組み	教育長
		2. 農商工共創協議会の更なる充実活動について	町長
		3. 地域おこし協力隊の増員と集落支援制度の活用について	町長
4	11番 山本好章	1. 学校の教育環境整備について	教育長
		2. 一般国道4号盛岡南道路について	町長
5	2番 高橋敬太	1. 人口減少社会に対する本町の適応策は	町長
		2. 生きがい創出と健康寿命の延伸の取り組みは	町長
		3. 格差解消、負担軽減で安全・安心に暮らせる矢巾であるために	町長
6	8番 小川文子	1. 煙山保育園の今後のあり方と「学びの架け橋プログラム」について	町長・教育長
		2. 今後の矢巾町の農業について	町長
		3. 県立盛岡地区統合新設校の開校に伴う環境整備と活性化策について	町長
7	3番 横澤駿一	1. みんなにとってやさしい社会の実現に向けて	町長・教育長
		2. 農村の持続的な発展に向けて	町長・教育長
計	7名 19件	【一般質問実施日】 令和7年3月6日(木)午前10時 ※受付No.1 ~ No.4 令和7年3月7日(金)午前10時 ※受付No.5 ~ No.7	町長 16件 教育長 6件

一般質問通告書

矢巾町議会議長 廣田清実 殿

受付 No. <u>1</u>	令和7年 2月20日	午前・ 午後 9時00分
議席番号 <u>17番</u>	谷上知子	

番号	質問要旨
質問1	<p>(質問事項) 高騰するランドセルの購入助成について (答弁者) 教育長</p> <p>新入学児童が持つランドセルは高騰しております。ランドセルの購入支援については、令和4年12月議会の一般質問で提案しております。昨年度開かれた町民と議員をつなぐ会では、参加者からランドセル購入助成についての要望も耳にしました。</p> <p>以前ランドセル購入は就学援助費にて対応との主旨の答弁がありましたが、高騰しているランドセルに対して保護者が苦慮していることから、対象範囲を拡大し助成する考えはないか伺います。</p>
質問2	<p>(質問事項) 高齢者が安心して暮らせるコミュニティについて (答弁者) 町長</p> <p>100歳までの生活が現実的になってきました。第8次矢巾町総合計画において、また令和7年度の施政方針演述においてもコミュニティが町づくりの基礎であることが述べられております。一方、「つながりたいけどしぼられたくない」は、コミュニティに対する本音でもあります。これからの地域社会は、人が意思を伝える言語によるコミュニケーションが大きい力になると考えています。</p>

超高齢化社会を迎えるにあたり、安心して安全な暮らしのための生活環境を整備していくこと、そのことは地域の高齢者だけではなく、子どもをはじめとする地区の住民にとっても安心安全な生活につながります。全国的に高齢者を狙った犯罪が多発しています。一日地域において過ごす高齢者の積極的な活動によって、活発なコミュニティを作ることで、犯罪も防ぐ効果が見込まれます。伝統的な食文化や生活文化の継承の一面も持ち、世代間を超えた社会的なつながりが生まれます。認知症の対策にもなります。高齢者が安心して過ごせる為にコミュニティ施策に関して以下伺います。

- ① 地域カルテの高齢者に関する内容について伺います。
- ② 高齢者世帯、独居世帯の安否確認の方法とその後の対応について伺います。
- ③ 防犯対策として防犯灯設置を推進する考えがないか伺います。

質問3

(質問事項) 適材適所で活かし育つ町職員の働き方について
(答弁者) 町長

デジタル社会が進み、効率化や便利さは、職場はもちろん家庭生活でも大きなツールとなっています。デジタルの機器は慣れると便利であり、これからの生活では必需品です。

一方、意思疎通もIT機器を通じて行われ、直接話すことが減少しています。デジタル化が進み、話すことで伝え合うコミュニケーションの減少は、会話の行間に現れる表情や感情、心情をくみ取り切れないと危惧しております。

人類の歴史によると、他の動物と大きく違うのは言語を持つことだと言われていています。様々な文化が発展してきた基礎的要因に言語があり、伝達能力があることが一因とも言われています(ホモサピエンスはどこから来たか、馬場悠男著)。

人類の進歩は言語で伝え合い、生活を工夫し改善したからだと言われていています。職場に直接話すコミュニケーションがもっとあってもよいと考え、人と人との円滑な交流が生まれ

ることは、仕事へのモチベーションにつながるのではと思います。

町づくりをリードする矢巾町職員の働き方と職場づくりについて、以下伺います。

- ① 勤怠管理システムを導入されていますが、導入によりどのような効果があったか伺います。
- ② 上司と部下のコミュニケーションの取り方について、どう取り組んでいるか伺います。
- ③ 職員増員の必要性はないか伺います。
- ④ 社会人枠での専門性の高い中途採用の実態について伺います。
- ⑤ 技能や専門性を身に着けるとともに、コミュニケーション能力を育てる体制づくりの取り組みについて伺います。

一般質問通告書

矢巾町議会議長 廣田清実 殿

受付 No. 2	令和7年 2月20日	午前・ 午後 9時15分
議席番号10番	小笠原 佳子	

番号	質問要旨
質問1	<p>(質問事項) 上下水道事業について (答弁者) 町長</p> <p>埼玉県八潮市での下水道管の破損をきっかけに起きた道路の陥没事故は、老朽インフラを放置する恐ろしさを見せつけた。また、能登半島地震による大規模な断水を踏まえ、上下水道管の耐震化が求められていることから、以下伺う。</p> <p>① 地方公営企業法施行規則による耐用年数(40年)を超えた水道管が全国的には2割存在すると新聞記事にあったが、本町の現状と対策は。</p> <p>② 全国的に年間2万件以上の漏水事故が起きている中、本町での漏水事故の件数と様子を伺う。</p> <p>③ 2025年にはピーク時の3分の2しか水需要が無くなる見通しとの統計もある。収入が減る中で設備を維持・管理するための本町での課題と取り組みについて伺う。</p> <p>④ 水道サポーターは町民が町の水道について学び、計画策定等には当事者として参加し、国からも高く評価されているが、今後の活動計画等があれば伺う。</p> <p>⑤ 水道事業の技能を持つ職員がいなくなると技能の伝承が困難になるが、町としての対応策を伺う。</p> <p>⑥ 本町で災害時に活用できる井戸はあるのか。</p> <p>⑦ 流域下水道は維持管理に重点が置かれ、大規模更新はほばないと聞くが、本町で陥没事故の発生する危険性についてどう認識しているか。</p>

<p>質問 2</p>	<p>(質問事項) 婚姻届の記入例について (答 弁 者) 町 長</p> <p>自治体における婚姻届の記入例の見直しについて、民法第750条の規定では、婚姻時に夫婦のいずれかが姓を改め、夫婦同姓にすると定められている。</p> <p>しかし、実際には約95%の夫婦が夫の姓を選び、妻が改姓している。また、自治体の婚姻届の記入例では、婚姻後の夫婦の氏を夫側にチェックを入れ、夫側を選択しているケースが圧倒的となっており、この記入例により、無意識にジェンダーバイアスがかかってしまうことになり、妻の氏を選択の余地を奪ってしまうことにもなりかねない。</p> <p>実際、本町においても、記入例を確認した際、夫の氏のほうにチェックが入っていた。夫側に誘導されているようにも受け取れる。</p> <p>他の自治体の記入例では、婚姻後に名のる氏をお二人で決めてチェックをしてくださいとコメントのみで、どちらにもチェックは入れないものがある。</p> <p>そこで、当町における婚姻届の記入例も、夫婦の氏が夫、妻のどちらでも選択できることが理解できるように見直されるべきと考えることから、以下伺う。</p> <p>① 窓口で例示する記載例には、男女の役割等への固定的な思い込みや偏見につながり、夫の氏に誘導する懸念があると危惧されるが、この点について考えを伺う。</p> <p>② ジェンダー平等の観点から、記入例にどちらにもチェックを入れない様にすべきと考えるがどうか。</p>
<p>質問 3</p>	<p>(質問事項) 産後ケアのサポート拡充について (答 弁 者) 町 長</p> <p>近年は核家族が多くなり、また出産年齢が上がっており、妊婦の年齢も上がっていると当然、親御さんの年齢も上が</p>

り、高齢等々で親や親戚等を頼れない妊産婦が多くなってきているようだ。産後も家族の支援が受けられずにいる方々のために、サポート、ケアの充実が求められていることから以下伺う。

- ① 日帰り産後ケアについて現在無料で毎月2回、全てが実施されても年24回の開催予定であるが、予約制で各日1組となっている。希望者は全員ケアを受けているのか。また利用した方の感想を伺う。
- ② 家事支援も大変重要になってくると思う。当町での産後家事支援事業の現状・課題・利用した方の感想を伺う。
- ③ 現在行われていないが、宿泊型の産後ケアについての要望はないのか。また、実施に至らない課題について伺う。
- ④ 産後の女性が不安を抱えることが多くなった社会に対して、少子化対策、産後うつ防止、児童虐待防止を目的とした「産後ドゥーラ」の新規導入について伺う。

一般質問通告書

矢巾町議会議長 廣田清実 殿

受付 No. 3	令和7年 2月21日	午前・ 午後 9時07分
議席番号16番	赤丸秀雄	

番号	質問要旨
質問1	<p>(質問事項) 町内学校の問題解決に向けた取り組み (答弁者) 教育長</p> <p>町内のとある学校で昨年7月から学級崩壊的状况であり、保護者と学校側の話し合いでは半年経った今でも、問題解決となっていないと聞く。</p> <p>教育委員会を含めた町として早期対応を図り、子どもたちに正常な勉強の環境ができるようお願いしたいと相談を受けたことから、以下について対応状況を伺う。</p> <p>① この事象は昨年6月頃が発端と聞いているが、教育委員会ではいつの時点で把握していたか。</p> <p>② 初期対応はどのように行い、その後学校側への対応並びに夏休み後も続いた経緯をどのように捉え対応したか。</p> <p>③ 保護者の一部からのヒアリングで、このような大変な事象が町内の学校で起こっていることを耳にし、なぜ未だに解決にならないのか理解に苦しむ。重大事故に至る前に即応すべきであることから、見解を伺う。</p> <p>④ 今回の事象で児童は精神的肉体的に疲弊していると聞くが、カウンセリング体制を強化して直ぐにでも対応が必要と考える。町単独経費でも即、対処すべきと思うがその考えについて伺う。</p> <p>⑤ 解決提案として、一堂に会した三者協議を行えば信頼関係も生まれ、良い方向性が見いだせると思うが三者協議を行う考えはあるか伺う。</p>

質問 2

(質問事項) 農商工共創協議会の更なる充実活動について
(答弁者) 町 長

町民が「住みたい」「住みよい」まちづくりには、産業の活性化が欠かせないと思う。

2月に議員有志で共創協議会委員の方々及び事務局を担う産業観光課との学習会、意見交換を行った。

協議会委員から農業・商業・工業分野に携わっている方に出席を求め、町内の産業分野の実状や活性化には何が必要かを話して頂き、大変有意義な会合であった。

ただ、残念であったことは協議会が昨年5月の設立で活動回数が少ないこと、令和7年度が始まろうとしているが、計画内容の擦り合わせが協議会内で説明されていないとのことであった。

私は町長が2年半前に声高らかに打ち出した農商工共創センター構想施策について大いに期待していた施策であるが、現在の実態が期待とかけ離れたものであり、残念でならない。そこで以下について伺う。

- ① 意見交換を踏まえると、年間活動回数は、20回以上は必要と考えるが共創協議会の予算措置はどのように考えているか。
- ② 町内産業活性化にはJAや商工会が取り組むことが難しく、役場で手が回らない部分を経験豊かな共創協議会メンバーの力で、矢巾らしい産業の仕組みづくりが必要と捉えるが、町の考えを伺う。
- ③ 農業分野の一番の課題は担い手が高齢化して、後10年は持たないと言う現状があり、これをどう捉えているか伺う。
- ④ 町内小規模な小売り・サービス業の在り方、持続的営業継続を町はどう捉え、対策を考えているか。
- ⑤ 学生、若い人が町外へ出るが、戻って来たいと思ってもどのような会社、仕事があるか判らずUターンを躊躇する方がいると言う。

	<p>小中高生への職場見学、企業PRなど継続した取り組みが必要とする意見があったが、その考えについて伺う。</p>
<p>質問3.</p>	<p>(質問事項) 地域おこし協力隊の増員と集落支援制度の活用について (答弁者) 町長</p> <p>町長の施政方針演述で、コミュニティの充実とまちづくりの発展を話された中に、地域おこし協力隊や集落支援員の活用を図り、とあった。</p> <p>令和7年度の取り組みや活用業務に具体的方針が固まったと踏まえることから、以下を伺う。</p> <p>① 募集時期と人員数をどう考えているか。</p> <p>② どのようなスキル、携わる業務など、どのような人材と人間像を考えているか伺う。</p> <p>③ 町内でも高齢者地域が出て来ている。集落支援員の活用は、地域の伝統や民族芸能などの継承も考慮したものとなるのか伺う。</p>

一般質問通告書

矢巾町議会議長 廣田清実 殿

受付 No. 4	令和7年 2月21日	午前・ 午後 11時36分
議席番号11番	山本好章	

番号	質問要旨
質問1	<p>(質問事項) 学校の教育環境整備について (答弁者) 教育長</p> <p>学校では、GIGAスクール構想により一人一台端末が配備されたり、大型提示装置の導入がされたりと学校教育環境が整備されており、ICT教育環境の整備が進んでいます。 ICT教育環境ばかりでなく、その他の教育環境の充実も必要であると思うことから、以下伺います。</p> <p>① 大型提示装置はデジタル田園都市国家構想交付金と教育施設基金繰入金で整備されるが、その他に令和7年度に教材備品を購入する予定はあるのか。教材整備関係の地方交付税措置がされているということだが、どの程度配慮されているのか。</p> <p>② 学校における理科教育は重要である。本町では理科教育設備整備費等補助金での整備が実施されていないのはどうしてか。特にも、中学校では必要とされていると思われるが、活用する考えはないのか。</p> <p>③ 学校から排出される一般廃棄物は「事業系ごみ」になっているが、ごみの収集方法や経費の負担はどうなっているのか。 また、産業廃棄物として分別されるごみの処理はどのように処分されているのか。</p> <p>④ 学校給食では牛乳が提供されており、飲食後の牛乳紙パックが燃やせるごみとして排出されているが、資源ごみと</p>

	<p>してリサイクルすることはできないか。</p> <p>その際、環境教育として取り扱うこともできると思うが、多忙な学校の負担にならない方法を検討できないか。</p> <p>⑤ 学校では環境教育の一環としてペットボトルのキャップの回収を行っているところもあるが、回収したあとはどのように取り扱われているのか。</p> <p>また、エコキャップ運動のようなことを、矢巾町として取り組むことはできないか。</p> <p>⑥ 夏の気温の高い時期には、熱中症指数により体育館を使用できないことがある。子どもたちの体育授業への影響や、災害時などの避難場所となっていることも考えると、空調設備の対策を早急に考える必要があると思うが、どう対策するのか。</p> <p>また、プール授業においても、熱中症指数によりプールが使用できないことがあり、十分に授業が行えない懸念があるが、その対応についての対策はあるか。</p> <p>⑦ ことばの教室の状況について、現在何人が指導を受けているのか。また、担当する教員の負担が過重になってはいないか。増員の予定はないのか。</p>
<p>質問 2</p>	<p>(質問事項) 一般国道 4 号盛岡南道路について (答弁者) 町 長</p> <p>一般国道 4 号盛岡南道路の整備促進について、現在国で予備設計が行われており、引き続き地元と国との橋渡し役として国土交通省岩手河川国道事務所と連携していくことから、以下伺います。</p> <p>① 令和 6 年 3 月会議にて質問したところであるが、その後において、地元からの要望はあったのか。あったとすれば、どのような内容か。</p> <p>また、そのことに対して国土交通省河川国道事務所との連携はどのようになっているのか。</p> <p>② 周辺農地の利用者からは、現在農道として利用している</p>

周辺町道への影響に心配の声が聞かれるが、どう調整していくか。

一般質問通告書

矢巾町議会議長 廣田清実 殿

受付 No. 5	令和7年 2月21日	午前 ・午後 1時00分
議席番号 2番	高橋敬太	

番号	質問要旨
質問1	<p>(質問事項) 人口減少社会に対する本町の適応策は (答弁者) 町長</p> <p>人口減少傾向の改善を目指す緩和策も大切であるが、それ以上に人口減少下でも幸せに暮らし続けることができるよう適応策が重要であると考え。そのために地域活性化および持続可能な地域づくりを目的として、「まち（コミュニティ）」「ひと」「しごと」づくりを一体的に推進していくことが重要であり、その手法の1つとして地域運営組織（RMO）がある。RMOは住民による協議と実行の組織であり、地域の生活を守るため、住民が中心となって形成され、地域課題解決に向けた取り組みを持続的に実践する組織とされている。本町ではこれまで地域カルテ作成のためのワークショップや地域未来づくり会議などが行われてきた。この会議では地域住民が地域課題を自分ごととして捉え、解決にはどのような実践が必要か行動計画を策定している。この取り組みはRMO設立につながる取り組みであると考え。町民が参加しやすい夜に開催し、担当課のみならず、多くの職員がワークショップへ参加して頂いていることに町民からは矢巾町が一番頑張っていると賞賛の声が上がっており、とても素晴らしく、町民が求めている事業ではないかと感じる。</p> <p>今後さらに発展し、いきいきと楽しく、いつまでも安心して暮らし続けることができるコミュニティづくりへ寄与するために、以下伺う。</p>

	<p>① 人口減少に対する適応策はどのように進めていくのか。現在本町で該当するのはどの事業であり、また課題はどのように捉えているのか。</p> <p>② 人口減少で地域の負担が大きくなり、単一自治会ではいずれ成り立たなくなるのではないかと懸念する。将来を見据え、今から近隣自治会同士が連携を模索して協働での活動を促す考えは。</p> <p>③ 地域を担うひとづくりにおいては当事者意識を持ち主体的に行動できる人財が重要である。そのような地域の担い手をどのように育てていくのか。</p> <p>④ RMOの形成による効果は多数報告されている。本町でもRMO設立を目指してはどうか。また、設立において現状考えられる課題は何か。</p> <p>⑤ 地域へ入り込む職員の努力は本当に素晴らしい。一方で負担も大きいものと推察する。地域づくりや地域活性化に応用できる支援制度はたくさんあると思われ、早期に申請することで財源確保や実施環境の整備に努めては。</p> <p>⑥ 小学校区を基本とし各地区の特徴を生かした組織にできる可能性があると考えます。不動地区では農用地保全の取り組みなども行う農村RMOの適用は可能か。</p>
<p>質問 2</p>	<p>(質問事項) 生きがい創出と健康寿命の延伸の取り組みは (答弁者) 町 長</p> <p>アメリカや日本における研究では、生きがいを持つことや人生で高い目的意識を持っている人は、そうでない人と比べ、心筋梗塞や脳卒中などによる死亡率が減少したという報告もある。人生をポジティブに捉えている人は健康で長生きする傾向があるとのことで、単に健康的な生活習慣を指導するだけではなく、人生の目的や生きがいを得られるように、健康と幸福感を促すための新たな取り組みが健康寿命延伸に有効である可能性が示唆されている。</p> <p>また、医療・介護給付費を抑制するためにも健康意識の向上が求められる。病院完結型医療から地域完結型医療への転</p>

換が求められる中で、病気の予防や進行を自ら防ぐ生活習慣はもちろん、早期発見には周囲のサポートも大切であり、生きがい創出や健康寿命延伸について以下伺う。

- ① 本町の生きがいづくりとしては、各種地域の居場所や老人クラブ、生涯学習、シルバー人材センターを通じた就労促進などたくさん取り組まれている。それぞれに成果と課題があると思うが、第8次矢巾町総合計画前期基本計画の指標となっている地域の居場所について、まだない地域は存在しているのか。
- ② 生きいきまちづくり委員会について、各部会の現在の最重要事項と活動内容および今後の方針は。
- ③ 各種ニーズ調査が行われているが生きがいづくりについて調査を行ったことはあるのか。また、どのようなニーズがあると捉えているのか。
- ④ 特定健康診査の受診率向上について、受診しない人へのアプローチはもちろんだが、受診した人になぜ受診したのかなどきっかけや現行の改善点などの調査を行い、手法を改善していくことも必要ではないか。そのような取り組みを行ったことはあるのか。
- ⑤ 健康的で毎日が楽しいと思える地域づくりの新たな手法としてコミュニティナース（CN）が徐々に広がりを見せている。CNは地域住民の日常生活に溶け込み、健康づくりや地域活性化を支援することを目的としている。病気や介護が必要になる前の段階から住民に寄り添い、関係を築き、健康づくりや予防を促進するという特徴があり、実際に介護保険料および医療費の抑制につながっているという意見もある。CNの活動は様々で、地域住民と一緒に畑で農作業をしたり、食のイベントを開催したりと多様な機会が提供され、生きがいを創出するプレイヤーとして活躍されている人もいる。CNを活用することにより、多様な活動の居場所をつくりつつ、医療費・介護給付費を抑制していく考えは。
- ⑥ 生きがいを客観的に評価するのは困難であるが、近年はウェルビーイング（WB）という考えが浸透してきている。

	<p>このWBも健康寿命や死亡率と相関関係があるという報告もされている。そしてWBを測定する方法も示されており、簡単に調べることができるものもある。富山県ではWB推進課があり、富山県成長戦略の中心にWBを掲げている。WBを指標として住民のWBを計測し、WBの向上を勘案しながら政策立案および評価を行っている。本町でも町民のWBを計測し、地域別、世代別などWBを評価検証し、政策に生かしていくのはいかがか。</p>
<p>質問3</p>	<p>(質問事項) 格差解消、負担軽減で安全・安心に暮らせる矢巾であるために (答弁者) 町長</p> <p>町内どこに住んでいても誰もが安全・安心に暮らせるまちを目指し、地域間格差をできるだけ無くする取り組みが大切であると考えます。中心部と周辺部では人口密度の違いなど環境により不公平とならないために、オール矢巾で持続可能なまちをつくり、町民の負担をできるだけ軽減、平準化したく以下伺う。</p> <p>① 防犯灯については、通学路など特に要望が多いところで、必要と判断される場合は補助率を上げるなど矢巾町全体での負担を考えていかなければならないのではないかと。</p> <p>② 固定資産税の納期について。本町では4月、7月、9月、11月とされているが、地方税法第362条では「4月、7月、12月、2月中において、当該市町村の条例で定める。但し、特別の事情がある場合においてはこれと異なる納期を定めることができる。」とされており、近隣市町でも4月、7月、12月、2月となっている。現代では本町でも会社員の方は多く、冬の賞与前にすべて納付することは負担と感じている町民も多い。なぜ本町の納期は一般的なものと異なっているのか。変更はできないのか。</p> <p>③ 自治会ごとで人口密度が異なるなどの影響で、地域の維持管理に負担の差が出ている状況はないか。</p>

一般質問通告書

矢巾町議会議長 廣田清実 殿

受付 No. 6	令和7年 2月21日	午前 ・午後 2時24分
議席番号 8番	小川文子	

番号	質問要旨
質問1	<p>(質問事項) 煙山保育園の今後のあり方と「学びの架け橋プログラム」について (答弁者) 町長、教育長</p> <p>令和7年度の施政方針で、町立煙山保育園の方向性が示された。保護者の就労にかかわらず、生後6か月から3歳未満のこどもが保育所等を利用できる「こども誰でも通園制度」が令和7年度から煙山保育園で実施することと、少子化の進行並びに民間保育事業者の育成支援の観点から、こども誰でも通園、一時預かり保育、休日保育、医療的ケア児の受け入れに加え将来的に病児保育事業にも取り組み、関係各位の理解を得て従来の保育所機能は廃止する方向で検討するということであったことから、以下伺う。</p> <p>① 現在通園しているこどもの保護者及び今後入園を希望している子育て世帯の方々に対し、この制度の説明はどのように考えているか。</p> <p>② 唯一残した町立保育園として、町内各保育園の保育士の研修に取り組み、リーダー的役割を果たす等、規範となって町内全域の保育の質の向上に貢献してきたと評価しているため、この保育機能は残すべきではないか。この経験値は何物にも代えがたいと考えるがどうか。</p> <p>③ 教育行政方針で基本方針の重点の一つ目として、就学前の教育・保育の質の向上を掲げ、幼児期から小学校期の教育に関わる幼保小の関係者が共通認識を持ち、幼児教育に</p>

	<p>において恵まれた資質や能力を学校教育に円滑につなげていく体制の構築に向け「学びの架け橋プログラム」の開発にかかる取り組みを推進していくと述べているが、保育園・幼稚園との連携はどのように考えているか。</p>
<p>質問 2</p>	<p>(質問事項) 今後の矢巾町の農業について (答弁者) 町 長</p> <p>本町の基幹産業として農業を持続・発展させていくことは全国的に食料需給率が低下する中、昨年は特にも米不足が生じたこともあり、とりわけ重要になっていると考えることから、以下伺う。</p> <p>① 本町の食料自給率はどれ位か。過去5年の傾向も併せて伺う。</p> <p>② 新規就農者を増やす取り組みと体制強化策は。</p> <p>③ 盛岡・紫波地区環境施設組合の予熱利用、場内のハウス利用等により冬季間の野菜栽培ができるよう、組合と協力できないか。</p> <p>④ 昨年のような米不足時の対策として、また、ふるさと納税の返礼品としての利用価値が高まっていることから、農協とも連携しながら町内産米の増産に取り組めないか。</p> <p>⑤ 農機具の支援も大事であるが、どのような支援を展開し今後拡充の予定はあるか。また、国の一次産業省力化機械導入補助金制度への取り組み状況はどうか。</p> <p>⑥ 農産物等の販路拡大も重要である。西門マルシェや今後矢幅駅自由通路・東西駅前広場の活用に期待するが、取り組みについての考えはあるか。</p> <p>⑦ 六次産業化も求められている。農協女性部や婦人団体等の取り組みもあるが、食や農業に若い方が関心を持っているとの報道もあり、消費者や学生にも声をかけ、幅広い取り組みにして六次産業の発展につなげてはどうか。</p>

質問3

(質問事項) 県立盛岡地区統合新設校の開校に伴う環境整備
と活性化策について

(答弁者) 町長

この4月から不来方高校は盛岡南高校と統合されて、南昌
みらい高校として新たなに出発することになった。高校生が
本町に増えることは大変喜ばしいと感じているが、これに合
わせて環境整備と活性化策に取り組むべきと考えることから、
以下伺う。

- ① 統合により生徒の往来が増えることで、交通安全の確保
策が必要と思われる。駅からの往来も増えることが予測さ
れることから、交通安全対策について強化すべきではない
か。

また、駅前並びに学校付近の現在信号がない交差点に信
号機設置を求めるべきでは。

- ② せせらぎ通りを通学路として活用する生徒も見込まれ
ることから、併せてせせらぎ通りを中心とした活性化策に
つなげる考えはないか。
- ③ 統合により体育館が新設されるにあたり、県と町は共創
プロジェクトとして進めるための覚書を令和6年5月30
日に交わしているが、その趣旨を伺う。
- ④ 現在、体育館建設は中止されていると認識しているが、
町民からは建設の推進を望む声が聞こえてくる。建設に向
けた今後の展望は。

一般質問通告書

矢巾町議会議長 廣田清実 殿

受付 No. <u>7</u>	令和7年 2月25日	午前・ 午後 9時00分
議席番号 <u>3</u> 番	横澤駿一	

番号	質問要旨
質問1	<p>(質問事項) みんなにとってやさしい社会の実現に向けて (答弁者) 町長、教育長</p> <p>多様性が重んじられ、個人の幸福を追求していく現代社会において、様々な立場の人が社会で活躍できる土壌を整えていく必要性が高まっていると考えます。</p> <p>医学の進歩も相まって、医療や介助などのサポートを受けながら生活している方の割合は増加傾向にあります。そんな中、岩手医科大学をはじめ、岩手県医療的ケア児相談センターが入っている、みちのく療育園などの医療資源に恵まれている本町においては、どんな立場の人でも社会活動や経済活動を行えるような後押しが必要であると考えます。そのことが、町としての魅力につながり、やさしい社会の実現に向けて大きな一歩になると考え、以下伺います。</p> <p>① 令和6年4月1日に障がいがある方への合理的配慮の提供が民間事業者へも義務化されたことに伴って、町としてどのような周知を行なってきたか。また、町内の民間事業者の合理的配慮の実施状況は把握しているか。</p> <p>② 現在、本町において介助を受けながら生活をしている方への支援について、対象者や支援内容を把握しているか。</p> <p>③ 現在、介助を受けながら町内の保育園に通っている方はどのような状況で、小学校入学後はどのようなサポートを考えているか。</p> <p>④ 医療や介助などのサポートを受けながら生活している</p>

	<p>方が、学校や就業、自営業など、経済活動を行う際に医療的なサポートが受けられず仕事や社会活動を躊躇せざるを得ないという課題があります。そこで、雇用施策との連携による重度障害者等就労支援特別事業という国の制度を活用し、誰もが社会で活躍できる土壌を整える必要があると考えるがどうか。</p>
<p>質問 2</p>	<p>(質問事項) 農村の持続的な発展に向けて (答 弁 者) 町長、教育長</p> <p>本町においては豊かな水資源を活用し、主に水稻栽培を中心に開墾が行われ、その肥沃な大地から採れる美味しい野菜やお米のお陰でたくさんの方が育ってきました。</p> <p>また、各自治会単位で農村地域が活性化することで、その土地特有の伝統文化、伝統芸能が生まれました。しかし、現在、農業を取り巻く環境が非常に厳しくなり、担い手不足は深刻化し、農村地域では高齢化率が上昇していく一方です。</p> <p>農業基盤の強化に向けて、大規模化、集約化で生産効率を上げることが食料安定供給の側面で非常に重要であります。</p> <p>しかし、そのことで地域から人がいなくなってしまうのは本末転倒であります。豊かな田園風景と脈々と引き継がれる伝統文化こそがこの町の宝であり、オンリーワンの魅力であると考えるところから、以下伺います。</p> <p>① 農業経営基盤強化促進法の改正により令和5年4月から地域計画が定められ、目標地図が完成間近だと思うが、担い手の側面から現実的な目標策定に配慮して策定を進めているか。</p> <p>② 食と農を取り巻く環境は依然厳しい状況が続いている。農政は国の政策がカバーするエリアが大きい分野ではあるが、町産農産物の消費拡大などは町がハンドルを握っている部分であると考え。「食と地域おこし」というキーワードで、農業を後押しする施策も有効であると考え。本町の農業産出額一位の米の消費拡大へ繋げる具体的な</p>

施策として「チャーハンのまち矢巾」として、町内飲食店や給食センターなどと連携をして、米の消費拡大を図ってはどうか。

- ③ 矢巾町は県内でも有数の伝統芸能保存団体があるまちだと考える。昨今の少子高齢化社会にプラスして、コロナ禍により活動を休止する団体が出てきた。伝承に関する課題は大きく分けると2つあると考える。1つ目は伝承したり教えたりする方がいない。2つ目は伝承先、つまり次代の人がない。前者はどうにもならないかもしれないが、後者は地域資源を活用することで解決できる可能性があると考えます。

小学校、中学校、時には保育施設と連携して、部活や課外活動の一部として伝統芸能と触れ合う機会をつくることで伝統芸能の伝承はもちろんのこと、子どもたちへの郷土教育、大人と子どもが共に育む地域づくりへつながると考えるが、そのような機会を教育や保育の場に取り入れる考えはないか。